

令和6年度第2回市民力推進委員会 会議録

日 時 令和6年10月2日(水) 18:30~20:30

場 所 長崎市役所7階 記者会見室兼中会議室

出席者 委員長 山口純哉

委 員

上野美也子、浦川翔平、梅川健治、江口忠宏、大野俊一、柿田多佳子、櫻山周一、
貴戸淳二、林田英昭、稗圃健史、平山智秀、松尾博之、松下隆、吉田伸吾(敬称略)
事務局 印藤真哉、川口育美、野中誉仁、溝口紗代、原田宏子、御厨良雄

次 第

協働について(講話)

講師: 山口委員長

議題1 これまでの市民力向上に向けた取組み及び
市民協働推進室の上半期事業報告について

議題2 ヒアリング結果について

議題3 経済的支援のあり方について

事務連絡等

令和6年度第2回 市民力推進委員会会議概要

日 時 令和6年10月2日(水) 18:30~20:30

場 所 長崎市役所7階 記者会見室兼中会議室

出席者

市民力推進委員会：

山口純哉委員長

上野美也子委員、浦川翔平委員、梅川健治委員、江口忠宏委員、大野俊一委員、柿田多佳子委員、
檜山周一委員、貴戸淳二委員、林田英昭委員、稗圃健史委員、平山智秀委員、松尾博之委員、
松下降委員、吉田伸吾委員

事務局：印藤市民協働推進室長、川口係長、野中、溝口、原田、御厨

－ 会議概要 －

会議に先立ち、市民力推進委員会と事務局の間で「協働」についての共通認識を持つため、委員長から講話。

議題1 これまでの市民力向上に向けた取組み及び
市民協働推進室の上半期事業報告について

資料に基づき事務局から説明

【委員長】

事務局からの説明について、質問・意見等はないか。

【委員】

資料2において、これまでの協働の取組で「知る」の部分がすべて終了している。以前自分の活動もケーブルで紹介していただいた。前回の会議で、新規事業で動画を使った事業を計画していると聞いたがその進捗を伺いたい。

【事務局】

これまでの放送内容については、YouTubeで公開しており現在も視聴可能となっている。新たに取り組んでいる事業については、提案型協働事業の中で市民活動団体のリーダーに焦点を当てた取り組みを予定しており、審査会が10月15日に予定されている。市民協働推進室と長崎ダンカーズクラブと一緒に審査を受け、その後来年度予算案が承認されれば事業実施できるようになる。動画の使い道としては、リーダーの思いや理念をしっかりとインタビューし、その様子を発信することで共感する企業等につなげることができればと考えている。

【委員】

事業は終了したとのことだが、成果はどうだったのか。終わりましたただだと成果が出てきておらず、もともとの目標と結果などについてどのように分析したのか教えて欲しい。

【事務局】

市民活動の周知には役立ってきている、13年間取り組んで来て周知する段階は終わったものと判断している。それ以上の広がりが必要になっており、新たな手法を考える必要があるということで、今回の事業を提案している。ちゃんぽんミーティングについても、令和4年度までで90回、延べ1,300人に参加していただいた。その間に市民活動センターの設置や、デジタル機器の発達等もあり、ネットワークや情報発信の部分が充実したことで、少しずつ縮小していった。市民フォーラムについても、平成30年度までで約20回開催している。

少しずつ市民活動を知ってもらうために色々な周知に取り組んできた。市民活動センターも軌道に乗り、情報発信の発達等もあり市民活動の認知度が上がってきたことで少しずつ縮小してきたものと考えている。

【委員】

今後の取組について、今期はどこまでやっていくというところまで設定しないと、成果として見ることができない。危惧しているのは、来期も同じような資料が出てくることで、3期委員をやっているが毎年あまり変わっていない。その原因は具体的な目標値を出していないからだと思う。

また、説明の際にはモニターを活用して説明してほしい。

議題に入る前に市民活動団体等へのヒアリングに取り組むことになった経緯について、事務局から説明

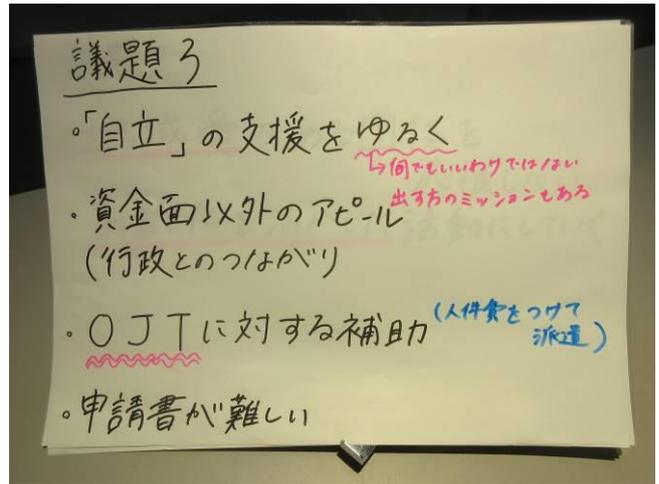
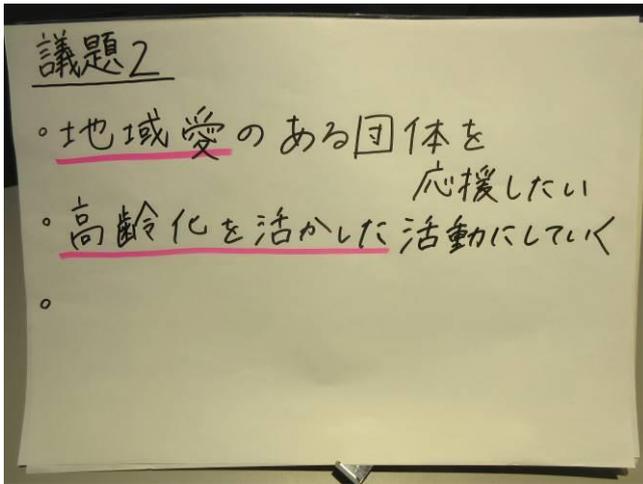
議題2 ヒアリング結果について

議題3 経済的支援のあり方について

議題2・3についてグループに分かれ事務局からの説明し、グループ内で質疑応答
グループ内での質疑や意見について全体へ共有

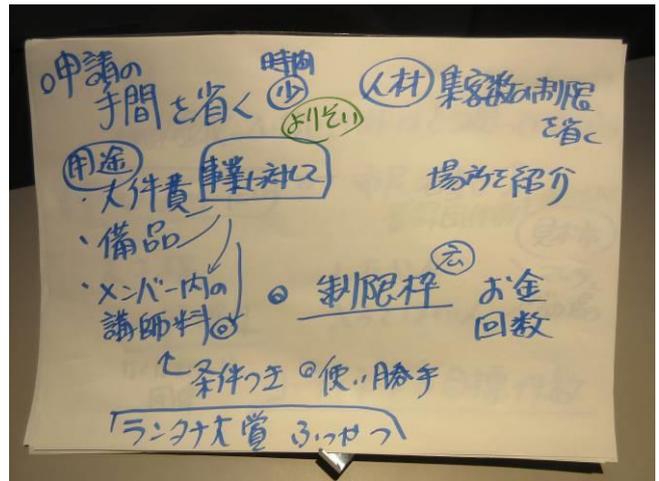
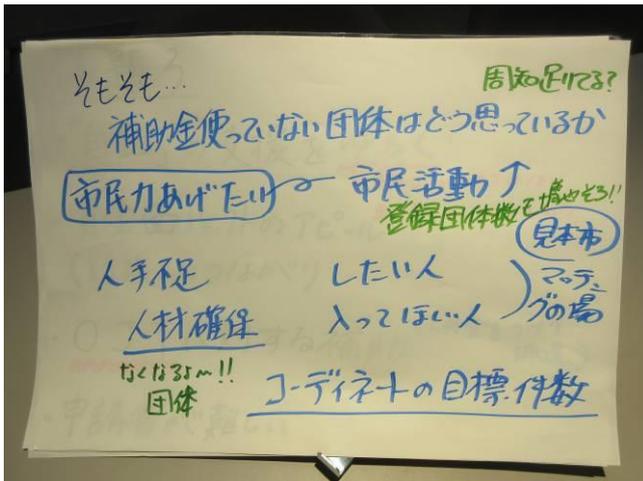
○グループ1

- ・地域愛のある団体を取り上げた方がいいのではないかな。
- ・活動の内容を高齢化に合わせてシフトしていった方がいいのではないかな。
- ・経済的な支援のあり方については、自立の支援であればなんでもいいわけではなく、団体側のミッションも踏まえていく必要がある。
- ・補助金活用のメリットとして、資金面以外にも行政とのつながりができる点がメリットとしてあることをアピールしてもいいのではないかな。
- ・人材育成補助金についてはOJTに対する補助金があったいい。



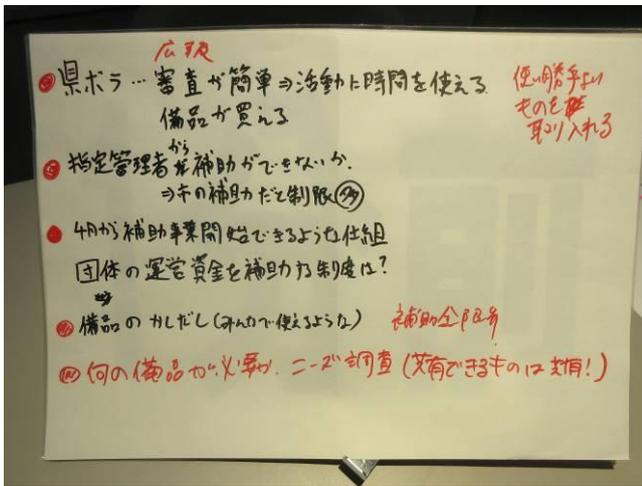
○グループ2

- ・ヒアリングについて、優等生の団体をヒアリングしているのではないか。
- ・補助金等を利用していない団体の意見を聞いてみたい。
- ・補助金以外の支援のやり方もあるのではないか。
- ・活動をしたい人、人材が欲しい団体のマッチングをできる場があったらいいのではないか。
- ・市民協働推進室や市民活動センターでどういう団体同士のコーディネートをつつまでに何件やるといった目標を持った方がいいのではないか。
- ・補助金については手間を省き、寄り添いながら一緒に考えるような支援がいい。
- ・補助金の用途として、備品や人件費が利用できればいいが事業補助のため無理な面がある。
- ・団体メンバーが講師をする場合、例えば市民対象の講演会を行う場合は謝礼金として支出ができるような条件付きで使い勝手のいいようなルールにすることは可能ではないか。
- ・上限額を引き上げる、回数を増やすという意見もあったが、ニーズをよく調査する必要がある。
- ・人材育成補助金の催行人数 20 人を減らすことは検討できるのでないか。
- ・ランタナ大賞のような、みんなが感動・共感するような機会があってもいいのではないか。



○グループ3

- ・ながさき県民ボランティア活動支援センターの補助金が活用しやすかった。審査に手間がかからず、スピーディーなため、その分活動時間に充てられる。
- ・ながさき県民ボランティア活動支援センターのNPOスタートアップ等支援事業は備品が買える点や、NPO広報支援事業でホームページの作成することができるため非常に魅力的だった。そういった使い勝手のいい補助金の良いところを取り入れた方が良いのではないか。
- ・市の補助制度では、制限がどうしても生まれてしまうため、指定管理料に補助金の予算を含め、指定管理者の業務として補助金も入れてしまえば自由度が高まるのではないか。
- ・市民活動支援補助金の活動スタートが早くても7月からになるため、前年度に審査し、4月から事業開始できるような変更はできないか。
- ・備品の貸し出しができないか。こういった備品が必要なのかニーズ調査は必要だが、共有できるものがあれば可能ではないか。



【委員長】

率直な意見が出てよかった。

調査の件については、補助金を使っていない団体に話を聞くことについては当然かなと思う。

地域愛や高齢者という話については、長崎市がどんな団体に使ってほしいかという仮説を持って調査をしないといけない。これから高齢者の活動を増やしたいのであれば、高齢者の活動をしている団体になぜ補助金等を利用しないのか聞く必要があるし、子育て支援だったらそういうところに聞かないといけない。どういうところにヒアリングするかというところは、長崎市の意向がどこになるのかをもう少し詰めて考えた方が良いのではないかと思う。

補助金については、人件費や備品が使えるといい。ただ、税金であるということもあるし、補助である。補助と委託の違いというのは、聞いたことあると思うが、委託というのは公共に必要なだから、市がまるまるお金を出すもの、補助は活動が社会に役立つから一部を補助しようということである。そのため、市の課題に対して、市民と行政が共有した上でそれに対して補助金が支給されるというのは方向性としては間違っていない。

しかし、現実問題として市が課題をすべて把握しているかというところではないため、市民のみなさんの中で大事だと思ってやっていることを尊重することは大事である。

使い勝手を良くしようとすると、基金化して自由に何でも使えるような形でやることも必要になるし、ふるさと納税の一部を活用し、比較的自由に使えるお金として活用するような方法もある。

市民活動団体のみなさんをどういう状況に持って行きたいのか、そのために長崎市がどういう補助を出すのかというところを皆さんと事務局が一緒になって考えていく必要がある。そこが決まれば、後はどういう仕組みでやったらいいのか、もっと使い勝手良い方が良いのであれば基金化したり、制度が許す範囲で市が直接補助するにしても使い勝手を改善したりなど、制度設計をするということになるかなと思う。

今日みなさんから出た意見を事務局は持ち帰っていただき、可能性として揉んでいただければと思う。必要があれば、また委員のみなさんから意見をいただいて経済的支援のあり方についても考えていけたらと思う。本音で話していただくことがすごく重要であり、ちらほら聞こえてきた声も大事であるため、ぜひ市の方でも十分理解して使っていただければと思う。

【委員長】

今日みなさんからいただいた意見をもとに、事務局の方で事業見直しのたたき台を作っていくということになる。次回第3回も改めて皆さんから意見をいただくことになるかと思うので、またご協力いただきたい。

－ 以 上 －